

令和5年度 授業改善推進プラン <技術・家庭 家庭分野>

大田区立大森第十中学校

○技術・家庭(家庭分野)における令和4年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・身近な内容を取り上げることで、自分の生活を見つめるきっかけをつくることができた。
- ・食品のパッケージや幼児期に使用していた物の実物を見せることを通して、学習内容をより身近に感じ、授業に関心をもたせることができた。

<課題>

- ・ICTや、発表、作品作りなど各自得意分野を生かしながら、大変よく行っている。更なる向上のためにあと1歩工夫する、確認するといった行為を怠らずますます自信がつくように、持続的な習得習慣を持たせる。

○技術・家庭(家庭分野)における観点別の分析

知識・技能

- ・ICT機器の活用や習得することができ、実践力もつけてきている。さらに知識や技能を向上させることや定着を図ることが大切である。

思考・判断・表現

- ・生活をより良くしようと実生活の中で自ら問題に気付く力や課題を設定する力を育むことができ、課題を解決する方法や実際に解決する力の育成も高めつつある。

主体的に学習に取り組む態度

- ・苦手な内容にも、頑張っって周りの様子も見ながら作品を完成するなどよくできている。個々における詳細な違いを見極めるためにも、全体指導と個別指導の両方を取り入れる必要がある。
- ・自分の生活と社会の関わりについて理解を深め、身の回りの生活の中で適切に知識・技能を活用する態度の育成が必要である。

○分析に基づいた授業改善のポイント

1 長期休業中の課題として、学んだ内容を実践させる機会を設ける。

学んだ内容を踏まえて自分なりに考え行動することを通して、学んだことを実生活に活かす重要性を体験する。

2 生活の中で問題を見つけ、課題を解決する力を養うための学習活動の充実

日頃の授業において、問題を見つけ解決する力を養う取り組みを行う。1人では考えることが難しい生徒もいるので、他者の発表を通して学ぶ機会も設定する。

3 「わかる」「ためになる」授業を行い、関心意欲につなげる。

生徒の日常生活に活用しやすい内容を多く取り上げ、教材を工夫する。全体指導と個別指導のバランスをとり、苦手意識のある生徒には各自の知識技能の習得状況に応じた対応をする。

○技術・家庭(家庭分野)の授業改善策

第 1 学年

- ・生徒自身が自分の生活に置き換えて考えやすい内容を多く取り入れた授業を行う。また実生活で活用しやすい内容を多く取り扱う。
- ・全体指導と個別指導を取り入れながら、基本的な家庭科の知識と技能の定着を図る。

第 2 学年

- ・昨年度習得した知識と技能を活用するような教材を取り入れ、必要に応じて復習を兼ねた教材も取り入れる。
- ・他者から学ぶ活動を通して問題の解決方法を見付け、自身の技能を高める。

第 3 学年

- ・自分の生活や社会における問題点を見つけ、既習事項を活用しながらそれらを解決する方法を考え、実践できるようにする。
- ・自立した生活を送るために、学んだことを活用し、よりよく生きようとする意識を高める。